

**SONY**

# Cloud SDK Deserialize サンプル 機能仕様書

2022 - 11 - 09

# Table of Contents (目次)

更新履歴	1
はじめに	2
用語・略語	3
参照資料	4
想定ユースケース	5
機能概要、アルゴリズム	6
操作性仕様、画面仕様	7
各BlockでのAPIパラメータ	8
目標性能	9
制限事項	10
その他特記事項	11
未決定事項	12

## 更新履歴

Date	What/Why
2022/11/10	初版作成

## はじめに

- ◆ 本書は、ユーザーに提供するDeserialize用のサンプルコード機能仕様書である。  
環境はPython/TypeScriptを対象とする。  
AIモデルはObject Detection/Classificationに対応する。  
なお、本環境下においてSerializeおよびDeserializeはFlatBuffersを利用していることとする。

## 用語・略語

Terms/Abbreviations	Meaning
FlatBuffers	Google製のバイナリシリアライズフォーマット
FBSファイル	FlatBuffers用のデータ構造を定義するファイル

## 参照資料

◆ 無し

## 想定ユースケース

- ◆ Serializeされた推論結果を復元して利用できる。
  - ◆ ユーザーはサンプルを実行することで、既存フォーマットの推論結果をDeserializeし取得できる。
  - ◆ ユーザーはサンプルコードとドキュメントを参考にすることで、独自に定義した推論結果フォーマットに対してのDeserialize用コード生成と実行方法を理解できる。

# 機能概要、アルゴリズム

## Functional Overview

- ◆ Serializeされた推論結果を復元する。

## Algorithm

- ◆ FBSファイルを元に生成されたコードを使い、データをDeserializeする。

## Under what condition

- ◆ Linux環境があること。
  - ◆ Deserialize用コードの自動生成を行う場合に必要となる。
  - ◆ 開発時はDockerを利用し、Ubuntu 20.04のコンテナ環境にて実施する。
- ◆ コードの自動生成時に使用する「FlatBuffers-compiler」のバージョンは1.11.0とする。
- ◆ データのSerialize用コードを生成したFBSファイルを所持していること。
  - ◆ Deserialize用コードの自動生成を行う場合に必要となる。
  - ◆ Serialize時とオブジェクトの定義が共通している必要がある。

## API

- ◆ 無し

## Others Exclusive conditions / specifications

- ◆ 無し



# 操作性仕様、画面仕様

## How to start

◆ 無し

## 各BlockでのAPIパラメータ

◆ 無し

## 目標性能

◆ 無し

## 制限事項

- ◆ 利用するDeserializeコードと入力したAIタスク出力結果が一致しているか判別することができない。  
(例 Object Detectionの出力結果をClassificationのDeserializeコードに入力してもエラーが起  
きない。)

## その他特記事項

◆ 無し

## 未決定事項

◆ 無し